

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟との協働事業 「チーム・エナセーブ 未来プロジェクト」を開始

住友ゴム工業は、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が進める、国内外の身近な文化・自然を守り伝える世界遺産・地域遺産活動や日本の文化を未来につなぐ未来遺産運動に、低燃費タイヤ「エナセーブ」シリーズの売上げの一部を通じて資金面および、人的に支援を行なう「チーム・エナセーブ 未来プロジェクト」を協働で開始すると発表した。

ダンロップは、1913年に「自動車タイヤ国産第一号」の生産を開始して以来、国産初のラジアルタイヤや、スノーラジアルタイヤなど、日本のモータリゼーションの発展に貢献してきた。そして100年後の本年11月には、世界初※となる「100%石油外天然資源タイヤ」の発売を予定するなど、低燃費タイヤを中心に地球環境に配慮した商品の開発により、持続可能な社会の実現を目指している。今回、国内外の身近な文化・自然を守り伝える世界遺産・地域遺産活動や日本の文化を未来につなぐ未来遺産活動を展開する公益社団法人日本ユネスコ協会連盟と、同社の持続可能な社会の実現への思いが合致し「チーム・エナセーブ 未来プロジェクト」が実現した。

同社は、2009年から「チーム・エナセーブ」活動を開始しており、低燃費タイヤ「エナセーブ」シリーズの販売売上の一部で、ユーザーに代わってタイヤインドネシアでマングローブの苗木を植樹し、マングローブの森をよみがえらせるとともに自然災害の防止や、豊かな漁場の形成等を目指している。この活動は多くのユーザーから共感得て、4年間で累計植樹本数は、100万本を超えている。

この「チーム・エナセーブ」活動を日本国内にも拡大し「チーム・エナセーブ 未来プロジェクト」として、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟と協働事業を展開していくとしている。

※合成ゴムが主流になって以降(同社調べ)

(1) 世界遺産「富士山」の環境保全活動を実施(2013年)

国連教育科学文化機関(ユネスコ)により世界文化遺産に登録された「富士山」の環境保全活動を行なう。10月19日(土)に、富士山の構成資産のひとつである湧泉群「忍野八海(おしのはっかい)」の清掃活動を、忍野ユネスコ協会とともに実施する。

(2) 日本各地の未来遺産運動をサポート(2014年～)

日本全国で失われつつある文化や自然環境の保護を目的とした、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の未来遺産運動をサポートし、日本各地で進められている環境保全活動に協力する。

「チーム・エナセーブ 未来プロジェクト」



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

私たちは、未来の子どもたちのための活動を始めます。



写真は、発表記者会見のフォトセッションの様子

住友ゴム工業：山本悟常務執行役員ダンロップタイヤ営業本部長（写真左）

日本ユネスコ協会連盟：内田眞朗専務理事事務局長（写真右）